

豊中の 自然に 親しむ

持続可能な地域社会の実現をめざして活動する
NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21では、
自然部会が、自然に親しみ学ぶ、守り育てる活動を担っています。
季節ごとに企画されている自然観察会の様子をご紹介します。

春

豊中の「山岳地帯」に行く

山口さんの案内で尾根伝いに歩きます。



← シュンラン(春蘭)

素朴な野生の蘭の一種で、花が春に咲くことからシュンラン(春蘭)と名付けられました。守っていききたい希少な植物です。



↑ 三等三角点

測量に用いられる三角点の柱石。豊中市内で最も高い標高は海拔134m。

← 酔の木

酔の木の葉は噛むと酸っぱい。黒紫色に熟した果実は食べることができます。



夏

美しい 透明の翅に 感動

セミの幼虫は地中で約7年間を過ごし、夏の夕暮れから夜にかけて土から出て近くの木に登り、その幹や枝で羽化します。幼虫から成虫に変わりゆく様子を千里中央公園(新千里東町)で観察しました。



→ 羽化直後のセミ

セミは一晩この状態で過ごした後、朝になると飛び立ちます。

冬

春の七草に思いを寄せて



「1月7日に七草がゆを食べる習慣は、もとは中国から伝わった風習に由来し、貴族から庶民に広がりました。昔は、青菜が少ない冬場に田んぼのそばに生える草を摘んで食べていたのです」という山口さんのお話を聞いてから、大曾公園(北桜塚)で植物を観察。その後、一年の健康を願って、七草がゆと一緒にいただきました。



夏

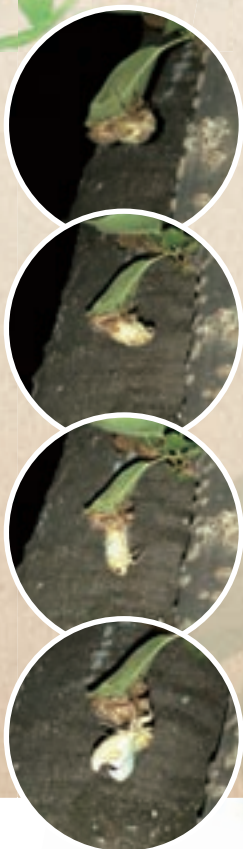
水辺に親しむ

夏には千里川の生きものを観察する会が開かれました。「10年以上前から観察会と生物調査を行っています」と話すのは自然部会メンバーの上田峯子さん。たくさんの親子が参加して、子どもたちは網を片手に生きもの探しに夢中になっていました。

幼虫の背中から頭が出たところ。

からだをそり返らせ、腹の先でぶら下がっています。

体勢を変えて、からにつかまります。翅はまだ伸びていません。



この日、見つけたのはオイカワ(コイ科の一種)など8種類。見つけた生きものは種類や数を数えたら、再び川にかえします。

